

---

## はじめに

ネット株トレードの環境が著しく進化しています。

高速インターネットへの常時接続はもちろんのこと、格安の手数料、リアルタイムのデータ、独自にテクニカル指標を作成し、自動売買プログラムを組むこともできる本格的分析・発注ソフト、さらにはAPIを公開するネット証券会社など、個人トレーダーがプロと遜色ない（ときには、それ以上に優れた）環境を手に入れることが可能になってきました。

しかし、心配なことがあります。

次々と株やFX（外国為替証拠金取引）のトレード本が出版されているものの、内容といえば「教科書的」「初めての」「いくら儲けた」に終始するものばかりなのです。また出たな……と思っているそばから、さらにそのテの本が出版されています。おそらく、この種の内容が、今でも個人投資家に人気があるのでしょう。

しかし、よく考えてください！ ジャック・D・シュワッガー著『マーケットの魔術師』『新マーケットの魔術師』（いずれもパンローリング）に紹介されているような世界的成功を遂げたトレーダーたちでさえ、自分自身に宿題を課し、研究を重ね、独自の手法を築き上げているのです。それなのに初心者が、ただ“教科書”を読み、他人の方法をまねただけで、成功を続けられるのでしょうか……。

### 【免責事項】

※本書およびサンプルに基づく行為の結果発生した障害、損失などについて著者および出版社は一切の責任を負いません。

※本書に記載されている URLなどは予告なく変更される場合があります。

※本書に記載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標および登録商標です。

※ Windows®および Excel®、Visual Basic®は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※ Pan Active Market Databaseおよびチャートギャラリー、チャートギャラリープロはパンローリング株式会社の商標です。

---

なぜ高名なトレーダーやマーケットの魔術師たちは、一生かかっても使い切れないような資産を残すことに成功したのでしょうか？なぜマーケットの魔術師たちは利益を重ね、「一般大衆」と揶揄される個人投資家や個人トレーダーの多くは損失を重ねてしまうのでしょうか？

本書を最後までお読みいただくと、その答えはおのずとみつかると思います。

本書はトレードを実践し、それなりに成功を収めている個人トレーダーたちが、魔術師たちの著書にある手法をどのように「自分なりに」消化したか、紹介するものです。同じテクニカル分析による短期売買でも、得意分野や考え方は人それぞれと分かるでしょう。

一方、共通点にも気づくと思います。それは自分なりに信頼できる「やり方」を持ち、常にリスク・資金管理に厳格であることです。これは一朝一夕に身に着けたものではありません。チャート研究など基礎をみっちりやり、地道な努力を重ねてきた結果です。

このことはまた、私たちに魔術師たちが書いた本の読み方を教えてください。つまり本とは「自分なりの自信の持てるやり方」を見つけようと努力する人たちを支援するためのものなのです。

もし本書をキッカケに、正しいトレードのテクニックを身につけることができ、近い将来、一緒に成功の喜びを分かち合えるならば著者ともども、これほどうれしいことはありません。

2007年10月

パンローリング編集部

## まえがき 1

## 第1章 チャートに強くなるための練習問題 阿部達郎

## 1-1 相場で儲ける「秘密の奥義」 12

## 1-2 優位性を求めて 16

世界で1つ……17

投資本の読み方……19

本章の読み方……22

バーチャートの利点……25

## 1-3 タートルスープ 27

中長期戦略の「タートルズ」の手法を考える……33

## 1-4 アンチ 35

## 1-5 ウォルフ波動とスリーリトルインディアン 39

## 1-6 鞭打ち 42

## 1-7 聖杯 45

## 1-8 ID/NR4 48

## 1-9 ADXギャッパー 52

## 1-10 スマッシュデイ 54

## 1-11 隠れたスマッシュデイ 56

## 1-12 アウトサイドデイ (包み足) 58

## 1-13 スペシャリストのわな 61

## 1-14 参考文献 65

## &lt;練習問題Q1 ~ Q35&gt; 69

## 第2章 チャートギャラリーを使いこなす 櫻井元

## 2-1 チャートギャラリー入門 151

チャートギャラリーの探検……153

データの取り込み……156

オンラインヘルプ……159

## 2-2 チャートギャラリーの便利な機能 161

パラメータの変更……161

銘柄や限月の置換と時間枠の変更……162

複数銘柄や限月の重ね書き……163

ステータスバー……165

範囲選択……166

チャート定義ファイル……168

## 2-3 手書き場帳を目指して 170

画面の設定変更……171

段の属性……171

銘柄群機能……175

銘柄検索機能 (プロ版) ……176

独自指標の追加 (プロ版) ……177

応用例1—タートルスープ……178

応用例2—キリガンアイランド……181

応用例3—ホープ・アンド・ロープ・プレー……182

**第3章 チャート分析からシステムトレードへ** 柳谷雅之**3-1 システムトレードとは?** 187

システムトレードの長所と短所……189

**3-2 売買システムの構築** 191**3-3 売買システムの評価** 196

チャンネルブレイクアウト……200

ウップス……203

まとめ……205

**第4章 売買システムの作り方** 櫻井元**4-1 売買システムとは** 209**4-2 Excel入門** 211

価格データの記入とグラフ表示……211

式の記入……213

チャートギャラリーからの

価格データの読み込み……216

**4-3 Visual Basic入門** 218

関数の定義……219

文法の概要……220

デバッグ……222

イベント……224

**4-4 Pan Active Market Database入門** 225

オブジェクト指向プログラミング……225

クラスの宣言とオブジェクトの定義……226

価格データの読み出し……227

サンプル……229

**4-5 売買の表示** 236

条件式……236

論理値を扱う関数……238

現実的な建玉の表示……241

**4-6 成績の検証** 242

損益計算……242

損益曲線……244

システムの特徴量……246

より良いシステムを得るために……250

**第5章 売買システムを検証する** 柳谷雅之**5-1 検証のはじめに** 256

海外の手法を日本市場で検証……256

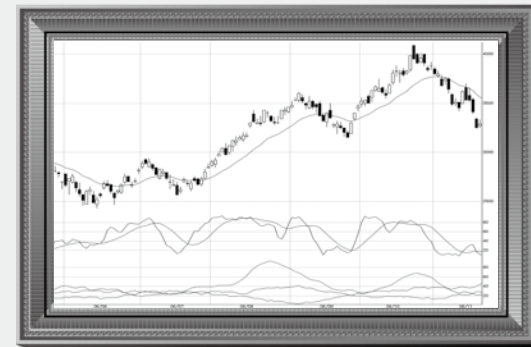
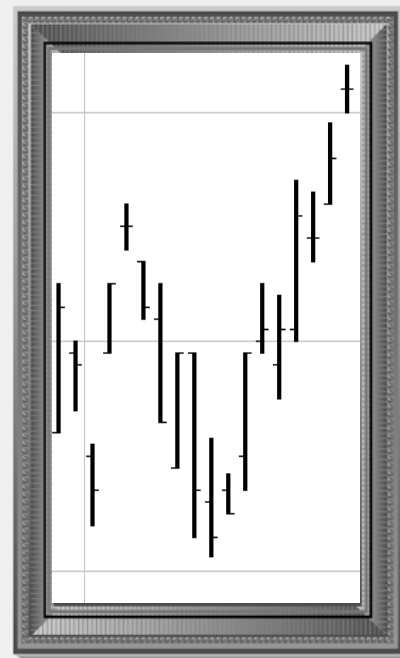
カーブフィッティングとは……257

検証に使用したデータとその理由……257

スリッページについて……260

成績評価の仕方……260

<b>5-2 ADXギャッパーを検証する</b>	<b>262</b>
ウップス戦略……262	
ADXギャッパー戦略……263	
検証からみたウップスとADXギャッパー……265	
<b>5-3 タートルスープ・プラスワンを検証する</b>	<b>275</b>
世界的に有名なトレーダー集団	
「タートルズ」をかモる……275	
検証からみたタートルスープ・プラスワン……276	
<b>5-4 アンチを検証する</b>	<b>282</b>
トレンドの動きをうまく利用する手法……282	
検証からみたアンチ……288	
<b>5-5 スマッシュデイを検証する</b>	<b>289</b>
ブレイクアウトが成功したかにみえるパターン……289	
検証からみたスマッシュデイ……291	
<b>5-6 SLIを検証する</b>	<b>296</b>
夢のような成績のシステム？……296	
検証からみたSLI……302	
<b>5-7 検証のまとめ</b>	<b>303</b>
検証結果という膨大な情報を生かそう……303	
<b>付録A：チャートギャラリーに収録した指標</b>	<b>305</b>
<b>付録B：相場用語集</b>	<b>327</b>
<b>付録C：試用版CD-ROM</b>	<b>357</b>



# 第 1 章

## チャートに 強くなるための 練習問題

阿部 達郎



## 1-1 相場で儲ける「秘密の奥義」

**“良いトレードの要素とは、1に損切り、2に損切り、そして3に損切りだ。もし、この三法則にしたがうなら、だれでもチャンスはめぐってくる”**——エド・スィコータ（ジャック・シュワッガー著『マーケットの魔術師』より）

後講釈でチャートを分析し、儲け話や高尚なことを語ることほど簡単なことはありません。しかし、これほど無意味なこと（チャートの後講釈）をこの世で探そうとしても、なかなか見つかるものではありません。

「ここで仕掛けて、ここで手仕舞う」

「なるほど、なるほど。鋭いですね」

「で、またここで、買えば、笑いが止まらないでしょう」

「ホントだ！」

「この銘柄だって、ホラ、ここで買うようにサインが出ている」

「すごいじゃないですか。今度、そのサインが出たときには、ぜひ教えてください」

「あー、いいよ。じゃ、電話番号かメールアドレスを教えて」

「その前に素朴な質問ですが、これでどのくらい儲かったの？」

「……………」

ワケ知りの初心者が超初心者に、また証券・商品会社の営業マンが顧客に言う「絶対に儲かる」とのホラ話やセールストークが、今日もどこかで交わされているに違いありません。

しかし、過去の解釈でなく、マーケットでリアルタイムに売買判断を下すことほど難しいことはありません。

それは、ワケ知りの初心者も、営業マンも同じです。また、高名な相場師やウィザード（相場の達人たちのこと。特にジャック・シュワッガーの『マーケットの魔術師』『新マーケットの魔術師』（パンローリング）で紹介されたような、傑出したトレーダーや投資家を指す）ですら、「明日、上がるか、下がるか」を100%近い確率で予測することは非常に難しい、いやほとんど無理な話なのです。

大きなことを言ったために、早ければ明日にでも自分の言ったことが間違いだと証明され、ワケ知りの初心者は面目が丸つぶれになり、営業マンは信用を失います。

そして、彼らは必ず同じことを言われてしまいます。

「じゃ、人にそんなことを教えずに、自分でやれば！」

もともと、高名な相場師やウィザードたちは一般投資家やアマチュアに、相場の強弱（上がるのか、下がるのか）の話はあまりしません。しかし、彼らも気心の知れた仲間うちでは、強弱について話すこともあるようです。

それは、マーケットが逆に行ったときの対処の仕方も分かっているし、強弱が絶対でないことも理解していることを前提で話してい

るからです。

要するに簡単に言ってしまうと、高名な相場師やウィザードでさえも、明日のことは分からないのです。

では、私たちが最も関心があり、探し求めている「明日買えば、1カ月後に10倍、20倍になっている銘柄」や「5年後に1億円になる投資手法」というのはないのでしょうか？ いわゆる「秘密の奥義」「だれも知らない情報」というものです。

**それはたぶん、おそらく、絶対に、世界中どこを探してもありません。相場でリスクなく、絶対に儲けられることが1つだけあるとするならば、それは「ブローカーになること」以外にはない**と思われる（ジャック・シュワッガー著『シュワッガーのテクニカル分析』パンローリングより）。

では、なぜ高名な投資家やウィザードたちは、一生かかっても使い切れないような資産を残すことに成功したのでしょうか？

なぜ確率は2分の1なのに、ウィザードは儲けて、一般投資家は損ばかりしているのでしょうか？

その答えは、無数にあり、ここでは到底書き尽くせるものではありません。その答えを知りたい人は、シュワッガーのベストセラー『**マーケットの魔術師**』『**新マーケットの魔術師**』や『**マーケットの魔術師【株式編】**』を熟読すれば、おのずと分かってくると思います。

ただし、ここでもウィザードになるため、莫大な資産を残すために、特に重要な2~3のことについては、書いておきます。相場を何年か勉強されている人にはもう「耳にタコ」状態とは思いますが、

再び確認しておいていただきたいと思います。

- ①仕掛けたときに設定した損切り注文をすぐに置くこと。
- ②以下に紹介するようなパターンになるまで仕掛けないこと。  
優位性があるときだけマーケットに参入すること。
- ③（①と②を実行する）「規律」を持つこと。

おそらく（ウィザードの1人にも会ったことはありませんが）マーケットの巨星ジョージ・ソロスも、トレーダー界のマイケル・ジョーダンであるポール・チューダー・ジョーンズも、マーケットの暴れん坊「ピット・ブル」ことマーティン・“バジー”・シュワルツも、生きる伝説リチャード・デニスも、タートルズの師匠ウィリアム・エックハートも、ソロスの右腕スタンレー・ドラッケンミラーも、「ピットに降りてきた神様」マーク・リッチも、上の3点には強く賛同してくれると思います。

これまで筆者は、相場の名著といわれるものを読み漁った結果、相場で儲ける「秘密の奥義」があるとするならば、上のような超カンタンで、だれもが知っている当たり前のことを当たり前にできることではないか、と思っています。

## 1-2 優位性を求めて

“1年間の取引日数を250日とすると、そのうちの200日は損も利益もほとんど同じ金額である。しかし、残りの50日で、大きく儲ける”——マーティン・シュワルツ(パンローリング刊『ピット・ブル』の著者であり、『マーケットの魔術師』で紹介されたウィザードの1人)

この章では、はじめに信頼度の高い売買戦略を解説します。

それらの戦略とは『魔術師リンダ・ラリーの短期売買入門』と『ラリー・ウィリアムズの短期売買法』(いずれもパンローリング)のなかで紹介されているものがほとんどです。短期売買戦略は、手数料が安くなったからこそできる手法です。

『魔術師リンダ・ラリーの短期売買入門』とは、アメリカでも大変評判が高く、『新マーケットの魔術師』でもウィザードの1人として紹介されているリンダ・ブラッドフォード・ラシュキとローレンス・コナーズの著書(原題『Street Smart』)です。

また『ラリー・ウィリアムズの短期売買法』は、ロビンズ・ワールドカップ・トレーディング・チャンピオンシップにおいて驚異的な成績で優勝し、短期売買では世界的に著名なラリー・ウィリアムズが自らのトレード戦術を集大成したものです。

この2冊は、ともに非常に評判が高く、世界的にその有用性を認められた本です。いわゆる「売らんかなの3カ月」本ではありません。この2冊はトレードをするかぎり、一生を通して付き合える書籍であり、読み返すたびに新しい発見がある本です。

相場で成功を目指す者にとっては、これらはすでに「基本書中の基本書」ともいえるべきもので、もし本書を読んで興味を持った方はこれらの書籍をぜひ読んでいただきたいと思います。

そうすれば、アメリカのウィザードたちの手法、考え方、戦略の一端が明らかになるでしょう。また、そこから**自分に合った戦略**を開発するときにはたいへん役に立つはずで

また、これらの戦略のパターンになるのを待つということは、優位性を持ってマーケットに参入するということを意味しています。

### 世界で1つ

ここで「優位性」という言葉が出てきたので、もう少しこの言葉を掘り下げてみたいと思います。

トレードにとって、「有利な状況になるまで待つ」「優位性のあるパターンになるまで待つ」というのは非常に重要で、売買の勝率と収益率を上げる基本中の基本です。しかし、これらはだれにでも分かる「優位性」です。トレード仲間に「こうなったから、仕掛けたんだよ」と言えば、売買技術に大差のない人ならば、たぶん、理解してくれるでしょう。

これとは別に「そのトレーダー自身の内なる優位性」というべき



ものがあります。それは、仕掛けようとしている戦略や戦術や手法が自分の性格に合っているかどうかです。初心者のころは、トレードのうまい人や儲けている人がいて、その人に聞いたり教えてもらえば、すぐに自分でも儲けられると、ついつい考えてしまいます（若いころは、容姿優先で交際相手を見てしまうのと同じかもしれません！）。

運良くその戦術を覚えてくれたとしても、たぶん、儲からないでしょう。それは①トレード資金の違いによって損切りの位置が違う、②損切りが3回続いたら気分的に耐えられない、③手仕舞いポイントが早すぎたり遅すぎたりして違う——など、さまざまな要因が考えられます。

しかし、儲からない原因は上のような目に見えるものばかりではありません。他人の戦略を実行していても、なんかしっくり来ないでやめてしまいます。いや、他人の戦略など、結局はやめざるを得ない運命なのです。もちろん、それは儲かっているうちはしっくりきて、損が続いたからしっくりこないというものではありません。

そのため、自分の性格はどんなタイプかを知ることは非常に重要です。慎重？ 大胆？ 温厚？ 短気？ がまん強い？ すぐ切れる？ 高圧的？ 刺激が欲しい？ 損切りは耐えられない？ 恋人の携帯電話を盗み見したい？ 勝率にこだわる？ 恋人に別れ話を切り出されても淡々としている？ 宝くじを何万円分も買ってしまう？ 馬券は当たるかどうかでなく好きな馬のを買う？ 外国人でも平気で話しかける？

まず、自分はどんな性格かを十分に検討してみてください。周り

の友人に率直に聞いてみるのもいいかもしれません（ただ、友人があまりに率直に言ったからといって、気分を害してはいけません）。ただ、絶対に正しいのは、「あなたは世界で一人」しかないということです。よって、あなたが実行して儲かる戦略・戦術・手法は当然、「世界で1つ」しかないということです。

## 投資本の読み方

筆者の友人にも、オプションの名人から直々の薫陶を受け、それを忠実に実行していた人も名人から独り立ちしてから収益が急上昇した人もいれば、また『魔術師リンダ・ラリーの短期売買入門』を数十回読んだ段階で、この本のなかのある戦術に啓示を受け、それを超短期の手法に改良して成功した人もいれば、システムトレードで自分の裁量が一切入らないようにしてからブレイクした人などがいます。彼らの共通点は、あまり難しいことはしていないということと、借り物の戦略・手法ではなくて、自分で編み出した戦略・戦術を用いているということです。

「自分で編み出した世界で1つの戦略」ということが大変重要なのですが、それは何もまったく新しい、だれも知らない戦略・戦術ではなくて、本章の最後に掲載する参考書籍のなかで書かれているものなどから刺激を受けたり、そこに書かれていることを基本にして、自分なりの改良を加えたものといったほうがいいかもしれません。

投資本というのは、そこに書かれている戦略・戦術を実行するた

めのものではなく、「自分だけの戦略ややり方を見つけるのを助けてくれるもの」なのです。というのも、もしあなたがこれから50年かけて完全なる「聖杯」を見つけたとしても、残りの人生を有効に過ごせる保証はありません。本を読んで、その50年が3年になれば、本を読んだ価値があるのではないのでしょうか。

ネットなどの書き込みを見ると、「●●●の本はダメだ」「●●はクソ本だ」などと、いろいろ書かれています。あなたが世界で一人である以上、その本はあなたにとってダメかどうかは分からないのです。「安く買って高く売る」というのが「投資の奥義」のように言われていますが、これも全トレーダーにとって真実ではありません。この本には書かれていませんが、「バリュー投資」を目指すのなら、それは真実でしょうが、「成長株投資」とか「モメンタム」を重視する戦略ならば、「高く買って、それよりも高く売る」と言うのが「奥義」になります。

本書は株と商品先物を扱っていますが、「優位性」ということから言えば、株のほうがより優位性を味方につけることができるかもしれません。それは、自分の性格に合った、実にしっくりくる「ある戦略」があった場合、何千という銘柄からその戦略が機能する銘柄だけでトレードすればいいということです。商品先物は銘柄数も少なく、また、最近では出来高が減っているものも多いので、銘柄のクセに合わせた戦略という考えが必要です。これは案外、難しいのです。しかし、株は「自分の性格に合った戦略」に合う銘柄を探せばいいのです。

そして、それもラリー・ウィリアムズの曜日バイアスの考えを取

り入れ、ABC銘柄は月曜・水曜・金曜の買いと金曜の売りのみにする、XYZ銘柄は火曜・木曜の買いと月曜・水曜の売りのみにその戦略を適用するとすれば、さらに「優位性」を強固なものにすることができると思います。

また、ここまで「性格」のみを強調してきましたが、「自分のさまざまな状況に合った戦略」でなくてはならないということです。例えば、フルタイムで非常に忙しい職場にいるのだったら、デイトレードはあきらめたほうがいいでしょう。また、前場の寄り付き、前場の引け、後場の寄り付き、後場の大引け、また途中で少しくらいなら、こそっとコンピューターを使うことぐらいはできる職場なら、かなりのことができるかもしれません。以前に大損して、奥さんにも言えず、会社でも家でもチャートを見る時間がないという人は、戦略もかなり限られたものになるでしょう。

一方、相場の世界に飛び込んできた方は全員が「儲けたい」と思っている、損をしにマーケットにやってくる者はいない、と言われるかもしれませんが、実はそうではありません。ハラハラドキドキしたい方、とにかく趣味で投資やトレードをしたい方は年間で数十万円の損失は覚悟して、トントンを目指す手法を開発するのもいいかもしれません。

これは儲かっている人への皮肉でも何でもありません。筆者の知り合いに、「車やゴルフが趣味の人でも最低年間数十万円は使っているのだから、トレードが趣味の人はトントンなら御の字、損をしても数十万円くらいなら別に悲観することはないし、儲かれば言うことはない。とにかく趣味なんだよ、趣味、トレードが」という人がいます。これも立派な考えだと思います。「相場をやっていて、

儲けないと意味がない」と正論を吐いている時代ではないのだなと思いついた次第です。

## 本章の読み方

まずは、この章の構成として、上の書籍で紹介されている主要なテクニカル戦略の12の手法を解説します。その戦略を十分に理解したうえで、次の練習問題に進んでください。

基本的に奇数ページには、あるパターンや、ここである戦略を取れば優位性を持つと思われるチャートを掲載しています。

そして次のページに、それを解説し、取るべき戦略とその結果を解説しています。全部で35問のチャートがあり、19問は株式、15問は商品先物、1問は通貨です。

問題ページで戦略を立てるときは、安易に解答ページを見るのではなく、毎晩チャートを真剣に検討するときと同じ意気込みでぜひ臨んでいただきたいと思います。

もちろん、章のはじめの、戦略を説明したページに戻って、どの戦略を採用すべきか、仕掛け値や逆行したときの損切りの位置などについて検討することはけっこうです。本章の目的は戦略を「記憶」することではなく、多くの参考書を見ながら、リアルタイムのときの気持ちになって「明日の戦略を立てる」ことにあるのです。

また本書は、チャートのパターンから仕掛けや手仕舞いのポイントを見つけるテクニカル分析の本です。けっして、会社の業績や商品の需給を重視するファンダメンタルズの本ではありません。その

ため、ここで紹介するチャートパターンは、株式相場でも商品相場でも、株価指数先物でも機能するものばかり集めています。

日本では、商品先物は博打か、危険度の高い投資、株式は投資というイメージがありますが、アメリカでは同じ相場・投資としてとらえられており、日本でいう証券会社が株式と商品を同じもののように扱っています。

アメリカでは、ふつう、株式用とか、商品用というように分けた戦略・手法はありません。株式も、商品も同じ相場であり、機能する傑出すべきテクニカル的手法であれば、分野を問いません（もちろん、銘柄別のクセはあります）。

そのため、自分は株しかやらないので19問だけをすればいいとか、自分は商品専門だから最初は飛ばすというようなことを考えていただく必要はありません。同じ相場、マーケットとして、戦略を立ててみてください。

ここで紹介する戦略のほとんどの仕掛けは、**逆指値の考え方・発想**に基づいています。「ここまで上がったらい、ここまで下がったら売り」というモメンタムに基づく戦略です。

買うときに、より安く買いたいというのは、ここで紹介する戦略にはありません。

より安く買いたいというのは、下げている途中で買うということです。ですから、長期売買ではその種の戦略・発想があるとしても、短期売買ではありません。

また、上げている途上や下げている途上で仕掛ける戦略では、仕掛けてすぐに利が乗らない場合は、損切りの位置までマーケットが

動かなくても、損切る、あるいはトントンや手数料だけの損で手仕舞いすることのほうが良い結果の場合が多いです。

おおよその目安としての損益は、低位株、値高株、売買単位、商品の場合で違いますが、1単位で利益5～6に対し、損失2～3、控えめにみて勝率50%超を狙います。

手仕舞いは、ここで紹介する戦略は短期売買戦略ですから、翌日から数日後、長くても1週間で手仕舞いするものです。

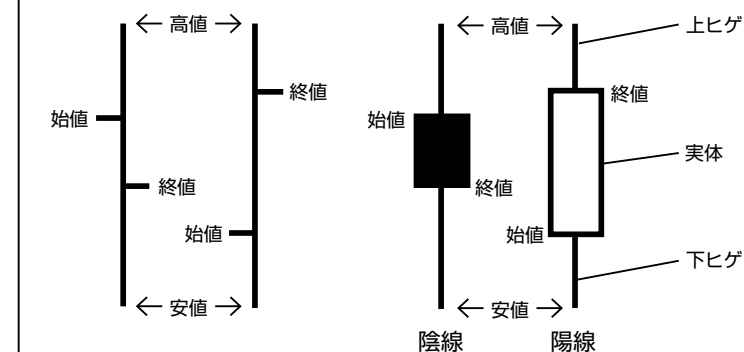
なかには、**トレイリングストップ**(逆指値の仕切り注文をマーケットの動きに合わせて、買っているときは上げ、売っているときは下げること)を使えば、仕掛けた方向になんの心配もなく放れていくこともあります。そのようなめったにないことに夢をかける戦略は基本的にここには載せていません。

ただし、トレイリングストップさえ使えば、そのような夢も、1年に数回は出合うことも可能ですが……。その場合は、少し緩めに損切り(仕切り)の位置を設定する必要があります。

迷っているうちに、またその損切り(仕切り)位置の内側に相場が動くこともあります。そのときは、莫大な資産を築いたアメリカきってのウィザード、エド・スィコータの冒頭に掲げた至言を思い出していただきたいと思います。

損切りさえできれば、次の機会に利益のチャンスはありますが、損切りができなければ、次回がなくなるかもしれないからです。

図表1.1 バーチャート(左)とローソク足(右)



## バーチャートの利点

では、戦略の説明の前に以下のチャートで使用する足について説明します。

この本では、**図表1.1**の左のバーチャート(棒足)を使用することが多いと思います。バーチャートとはその日の値幅を縦棒で表し、左の突起を始値、右の突起を終値で表します。高値はその日の足(棒)の一番上であり、安値はその日の足(棒)の一番下です。

このバーチャートの利点は、その日の高値や安値が日本では一般的なローソク足(**図表1.1**右)よりも分かりやすいことです。

一方、ローソク足は、その日が始値よりも終値が安く引けた場合は黒で表し、黒の部分の上辺が始値、黒の部分の下辺が終値です。